

押し寄せるグローバル時代の荒波。混迷を深める日本社会の真つ只なかにあつて、追大生はいかに自らを鍛え行動すべきか。そのパワーアップの手がかりを探るため、学生取材班は川原俊明理事長との体当たり対談を企画した。キャンパスの現状や課題、将来ビジョンについて理事長はどう考え、また学生の声なき声を大学改革に生かそうとしているのか。対談はたっぷり2時間半。理事長の生い立ち、人柄、哲学、世界観にまでどんどん踏み込み、大学経営トップの素顔に迫った。

一方通行の授業は時代遅れ 実社会見据え 双方向型への転換が急務

司会(杉本) 社会情勢が厳しさを増すなか、若者の内向き気質が指摘されています。追手門の学生をどうご覧になっていますか。

川原 しっかりしているし、明るく元気があると思いますよ。確かに一見おとなしく見える子が多いかもしれませんが。しかし、よく見ると活動の舞台があれば、積極的に行動する学生も少なくない。ですから、そういう舞台の仕掛けをどう増やすかが重要だと思っています。大学が、よりよい活動の場、よりよい機会を用意することで、学生はもっと変われるし、伸びる。その資質をうちの学生は持っていると思っています。

司会 うれしい評価ですね。私たち4人は、取材活動のほか、大阪梅田サテライトの大学広報人材養成講座や京都教育懇話会(産・官・学による次世代教育の支援組織)学生会、さらに追手門学院高校「立志塾」授業のそれぞれサポート役など活動の場をいただき、いろんなことを学ばせてもらっています。活躍の場は数多くあるとは思いますが。

川原 例えば英語ではイングリッシュカフェというような仕組みを取り入れ、英語漬けになれる環境をつくりたい。グローバル化を見据えての一手ですね。これに学生には運営面等で主体的にかかわってもらおう。そういう工夫が必要だと実感しています。

難波 僕は国際教養学部の英語コミュニケーション学科ですが、英語が苦手での学科に入りました。留学希望があり、話す英語の難しさを痛感しているので、そういった環境づくりは大歓迎ですが、これからはアジアの時代。アジアカフェとかインターナショナルカフェのようにして言語の幅を広げてはどうでしょう。

川原 確かに多言語は重要。他国では第2、第3と外国語を習得している人も多い。難波君にもぜひトリリンガルを目指してもらいたい。そうですね、この際、中国語や韓国語も取り入れて、新たな語学体験の場づくりが必要かもしれません。英語で行う授業や長期留学制度づくりも進めますよ。

古賀野 授業でいえば、習熟度別のクラス分けて学べるというなと思います。できる人の向上心も、そうでない人の学習意欲も高まるかと。

川原 今の授業形態には問題があると考えています。能力に適した学習環境、それに双方向型の学びの必要性を強く感じま

追手門学院大学

追手門学院

理事長 × 学生 Talk Session

対談
企画

TOSHIAKI KAWAHARA
川原 俊明 理事長

追大生 パワーアップの 原点を考える

経済学部 経済学科 2年生

MARIKO KOGANO

古賀野 莉子 さん



国際教養学部 英語コミュニケーション学科 2年生

RYOSUKE NAMBA

難波 亮祐 さん

心理学部 心理学科 1年生

JURI INOGUCHI

猪口 樹里 さん

す。もう一方的な知識伝達の授業は時代遅れ。教員が研究の社会的有用性をきちんと見据え、学生に寄り添いながら「二ヶトン」を交わし合う学びこそ急務です。社会に出れば最初から決まった答えはなく、知識の量や偏差値で人間の価値が決まるわけでもないわけですから。

古賀野 今年の大坂今宮戎の福娘に応募し、(3000人の中から)選ばれました。橋下徹大阪市長ほか様々な分野の著名人とお会いする機会があり、「学生も社会の一員」という意識を強く持ちました。実社会に一步踏み出したことで何かこう自信のようなものができた気がします。

川原 貴重な経験が積めたわけだね。

卒業生は生涯「追手門学院」の看板背負う

猪口 大学はもっとと社会とつながるといいと思います。私は茨木の中高から大学に進学しましたが、高校で社会人講師の先生方に学ぶ授業(立志塾)を受けたことで、「世の中」の課題や矛盾を考えるようになりました。その結果、学内外活動に携わり、第一線で活躍する社会人の方から知遇を得るチャンスに恵まれています。ですが、普段の授業だけだと社会との関係が希薄で、つい厳しい現実を忘れてしまいうるようになります。

川原 まったくその通りです。それにしても多方面に活躍していますね。

猪口 例えばFD活動を通して討論の大切さを学びました。授業後も学内に人が滞留しやすい場があれば、もっと学生が集まって議論できるのではないかと。実際はスクールのバス時間や図書館の閉館が早くて、授業が終わると皆すぐに帰ってしまつて。

川原 学生が大勢いてこそ大学だと思えます。そこは改善しないとけない。とくに図書館は大学のシンボル。知のセンターあるいは学生の集う場としても非常に重要です。学生がもっとキャンパスに滞留できるような態勢整備を急ぎます。

「I LOVE OTEMON」卒業生理事長の思い熱く

川原 ところで皆は追手門が好き？

猪口 はい。大好きです。

難波 うーん。難しいですね。



▲川原理事長が早稲田大学に在籍していた頃、女優・吉永小百合さんも同じ早大生だった。当時の女性週刊誌に掲載された大学内での吉永小百合さんの写真には、若かりし頃の川原理事長の姿も。その週刊誌のコピーを見て盛り上がる一同。

古賀野 ……すみません、私には希望の大学受験に失敗したという気持ちが強くて。それでも福娘など学内外活動を重ねて、なんとか自信が少し回復し、「I LOVE OTEMON」の意識も芽生えたように思います。

猪口 中高出身の学生は愛校心が強い。理事長は小中高(大手前の)追手門ですよ。

川原 ええ、その通りです。同窓会(山桜会)の会長を10年務め、学院理事として学校経営に携わってきました。大学こそ東京に出ましたが、追手門124年の歴史で初の卒業生理事長と自負しています。母校に恩返しをする。これは卒業生の責任です。卒業生は一生「追手門学院」の看板を背負って生きていくわけですから、理事長職を引き受けました。

司会 愛校心を肌で感じingのお話です。弁護士業との兼務はどのように？

川原 今年で弁護士事務所を構えて34年。今も現職の弁護士ですが、母校に力を注ぐあまり、事務所が傾きそうです(笑)。

学生2同 ええつ。本当に？

川原 日中はずっとこちらの仕事。早くて夜6〜7時に事務所に戻り、そこから10時、11時まで弁護士業をする。そんな毎日です。

司会 激務ですね。そうまでさせる魅力が追手門にはあると。

川原 実は僕らの同級生が追大一期生。本学卒業生の宮本輝さんと同じ学年です。初代学長の天野先生は素晴らしい志

理事長 × 学生



をもった人で、当時の追大は活気にあふれていた。それが今ではどうか。だから何とか開学当初の勢いを取り戻したい。そんな覚悟で改革を推し進めているわけです。

古賀野 次世代教育はどうあるべきか。持論をお聞かせください。

川原 教育は国の基盤。しかしながら、横並びの教育、出る杭は打たれる式の平等教育の風潮が、とりわけ初等・中等教育に顕著です。そして大学入試も旧態依然の

大胆な改革で開学当初の勢い取り戻す

偏差値輪切り。しかし、もうそんな時代ではない。世界が競い合うグローバル時代の教育は周りと同じではなく、出る杭になる人材の育成こそ目指すべきです。

キャンパス移転、新学部創設、そして将来の夢は「医学部」?

司会 これからの追大が楽しみですが、具体的にどのような計画をお持ちですか。

川原 実は本学には、キャンパスの一部(追手門学院中高と併せて)を移転するプランがあります。これから大学は大きく変わっていきますよ。

1同 ええつ、どこに移転を!?

川原 それはまだ言えません。ですが、今より便利で通いやすく、また勉学も研究も交流もしやすい環境になることは約束できます。

猪口 改革プランの中で学内情報を一括して扱う総合施設ができないでしょうか。現状は情報発信がバラバラで、いくつものケースが多い。お話の移転計画はビッグニュース。学内情報の共有化はキャンパス活性化に欠かせない条件だと思います。

川原 いいアイデアですね。加えてホームページなどに掲載した情報もパッと速報で学内に伝えられるような工夫をする。

古賀野 新キャンパスの目玉は何ですか。

川原 新体制下で学部再編を行い、その目玉に新学部の創設を計画しています。

司会 何学部ですか。

川原 理系の学部をつくりたい。文系の規模から文理を兼ね備えた総合大学へ。この総合大学への進化を我々の旗印にしたいですね。とにかく社会的インパクトがある学部を立ち上げたい。将来の夢は医学部の創設です。小中高の卒業生には医者

「I LOVE OTEMON」、学外活動で実感

▶PROFILE
経済学部 経済学科
2年生

MARIKO KOGANO
古賀野 莉子 さん

本学学生企画広報スタッフ。2012年大阪今宮祝 福娘。3,000人から選ばれた40人の1人。大阪代表で各地を表敬訪問し、桂文枝師匠ら各界の著名人と親しく交流。京都教育懇話会学生会部のデザイン担当。大学広報人材育成講座、経営力革新フォーラム等幅広く活躍。



インターナショナルカフェの創設に期待

▶PROFILE
国際教養学部
英語コミュニケーション学科 2年生

RYOSUKE NAMBA
難波 亮祐 さん

本学学生企画広報スタッフ。新学内誌「BRIDGE」取材の主力記者。取材能力は学内外で評価が高く、京都教育懇話会学生会部、大学広報人材養成講座、立志塾等でもホームページ、立志塾新聞制作などの分野で健筆を振る。留学希望。TOEIC® 800点をめざし猛勉強中。



改革プランの中で学内情報の総合施設を

▶PROFILE
心理学部 心理学科
1年生

JURI INOGUCHI
猪口 樹里 さん

本誌「BRIDGE」の命名者。追手門学院中学・高校を経て本学に入学。学生企画広報、大学広報人材育成講座、学生FD、立志塾、京都教育懇話会学生会部などのスタッフとして幅広く活動。海外への興味が高く、学内の中国人留学生と仲良くなった事を機に、この夏休みは中国・上海へ。



理系学部擁し 一大総合大学へチャレンジ



が楽しめると思いますよ。
難波 追大の外国人留学生はアジア圏に集中しています。他地域からもつと学生を集める必要があると実感しているのですが。
川原 当面の課題は海外の提携大学を広げて優秀な学生を集めること。提携先の拡充は本学からの留学生を増やすことを意味します。グローバル人材の育成はもちろん改革の大きな柱。向こう何年かで大胆に国際化を推し進める考えです。

頑張る追大生に 学院あげて支援策を

も多く、もう随分前から大学に医学部を
と望む声が強くなりました。残念ながら、
国の規制がかかっていますしね、いまは。
司会 今の茨木キャンパスは？
川原 こんな素晴らしい環境を生かさない手はない。ここはね、やり方次第で大化ける。そう個人的には思っています。
司会 どういった方法ですか、
川原 一つは大学の国際拠点にすればいいのではないかと。まず立派な学生寮をつくりたい。2人1部屋の全寮制で、外国人留学生と日本人の学生が相部屋になる。こうした環境だとお互いに語学のシャワーを浴び、毎日異文化体験できる。国際感覚もコミュニケーション能力もぐんぐん磨かれるわけです。そうなれば寮生たちが起爆剤となり、キャンパスは自然と国際化する。本学は自然に恵まれた環境下にあり、最高の寮生活、キャンパスライフ

理事長 × 学生



で本誌創刊号では専門家に取材して学生向けに国際化時代の就活ファッションはどうあるべきか、提案特集を企画、掲載することにしました。(P.20・21参照)これをより一層リアルにできればと思うのです。例えばアパレル企業などと協力して、学生モデルのショーと即売会を同時開催してはどうかなと。
川原 なるほど。確かに画一的な黒のスーツ姿はステレオタイプ的で自分の個性も志向も殺してしまっているように見えます。就活は自らをアピールする場。面白い企画、バックアップしますよ。

創設124年10万人の人脈で 新「追手門ブランド」確立

をいただけますか。
川原 そうですね。やはりその人が企業にどう貢献できるかがポイントです。「追大では大手企業は無理」と考える学生もいるようですが、それは心得違い。大企業だからといって遠慮することはない。どんなチャレンジすべきです。ただ、大企業が一番いいかといえば、一概にそうとは言えません。大手とはいえ今ではリストラも増え、終身雇用への信頼は昔の話。要は大学4年間でしっかりと自分自身の力をつけること。会社を引っ張っていくような人材に成長してほしいと思います。
猪口 私たちは就職意識を高めるため、来春にも就活ファッションショーを開催したいと考えています。就活では男女ともリクルートスーツ一色ですが、それではその人らしさ、個性が失われてしまう。そこ

— Talk Session —

夏オリンピックに出場した吉田胡桃さん(国際教養学部アジア学科3年)を筆頭に、多くの学生が多方面で活躍しています。そういった学生への支援体制はどうですか。
川原 吉田胡桃さんはオリンピックという世界の大舞台で5位入賞とすばらしい頑張りをを見せてくれました。ですが、オリンピック追手門でありアピールできなかったことは、大変心残りです。大学だけでなく、

追手門全員の誇りとして一人でも多く学院関係者に応援してもらえよう汗をかきたくてと反省しています。

建学の精神に立ち返り、 大学を変える

「大手企業は無理」は心得違い 就活ファッションで個性競え

司会 私も今年3年生になり、「就活」が身近に迫ってきました。就職事情は厳しくなる一方です。就活生に何かアドバイス



司会者のヒトコト

親しみやすい笑顔から覗く
改革への熱い思い

「卒業生は一生追手門の看板を背負う」。この一言が心に残り、キャンパスの誰もが身近に感じられるようになりました。「I LOVE OTEMON」。大学改革に寄せる理事長の熱い思いに触れ、母校のため今まで以上に手伝いできればと気持ちを引締められています。



◆司会PROFILE
 心理学部 心理学科
 3年生
 MEGUMI SUGIMOTO
杉本 恵美 さん

本学学生企画広報スタッフ部長。吹奏楽団所属。1年生の時から大学ブランド広告制作に携わり、日経新聞15段広告など実績多数。追手門学院高校立志塾、大学広報人材養成講座の各TA、京都教育懇話会学生部会長なども務め、学内外で活躍。

ち、自ら高める努力をする。そうした双方の改革意欲と実践が噛み合って初めて大学の名にふさわしいキャンパスが誕生するという考えが僕の持論。独立自強、自主・自由・自立ということですね。

難波 オール追手門で20年後のビジョンを考えるコンペを開催して、グループの全員が一致協力して新たな風を起こしていくというのはいかがでしょうか。
川原 それはいい。20年後の追手門は大きく変わっていますよ。大学でいえば50年の歴史ですが、追手門学院全体で見ると、124年に及ぶ歴史がある。この長い歴史の背景には、それだけの厚みと広がりをもった素晴らしい人脈があるということ。これはすごいことなんです。今提案してくれたように、幼・小・中・高・大で区分けせず、またOB・OGを問わず、オール追手門10万人のネットワークを構築して「追手門ブランド」を高めていくべきでしょう。ブランド構築の主役は学生、卒業生の一人ひとりで。私も皆さんと共に夢をみながら、これからの追手門学

院を一緒につくっていくと決意を新たにしました。
司会 最後に学生に対して一言いただければと思います。
川原 本学の学生はもつと自信を持って、胸を張って、自分は追大生であるということと社会に公言してもらいたい。皆、少し遠慮している面がありませんか。
学生一同 (うなずく)

川原 それは、第一志望でないとか。でも入学した以上は、この環境、特に人材、人脈の宝庫を積極的に活用してほしい。得がたい人脈の輪の中に、自分自身もいることを認識し、堂々と自信を持って社会に出て活躍してほしい。そうすることで、大学も元気になる。ブランドの価値は一人ひとりの学生の努力の積み重ねがなければ実現できない。共に追手門の同志として、改革の風を起こしていきましょう。
学生一同 ありがとうございます。

※本稿は2017年8月20日対談した内容に基づいています。

追手門は人材の宝庫、 追大生は胸張れ

VOICE 学生からの提案

理事長&学生による 本音トークの定例化



古賀野 莉子 さん

20年後の追手門を 考えるコンペの実施



難波 亮祐 さん

学生の手で 就活ファッションショー企画・運営



猪口 樹里 さん